

# お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成 20 年 9 月 17 日 (水)

ごあいさつ

三浦 徹 (お茶の水女子大学 教育機構長)



リベラルアーツとFDに関する公開シンポジウムを開催させていただきます。私は、前半の司会を担当いたします三浦と申します。お茶の水女子大学の教育を担当する副学長をやっております。

今日のシンポジウムの狙いを簡単にご説明申し上げます。今年度から私どもの大学で、21世紀型文理融合リベラルアーツというテーマ別の科目群をスタートいたしました。これは今現在、教養教育リベラルアーツの重要性がいろいろなところで議論されている中で、内容につきましては学外の方にはパンフレットをご用意しておりますので、そちらをご覧くださいなのですが、テーマを立てた科目群、サブジェクト・オリエンテッドと呼んでいるのですが、そういう形で専門間をつなぎ、同時に専門を超える力をつけていこうという狙いを持っています。

昨年これをスタートするに当たり、大学としては全学教育システム改革推進本部という全学組織を作りまして、その中に三つの部会があるのですが、リベラルアーツという専門部会を作り、教員、職員 20 名を超えるメンバーで検討して、またいわゆる学部の教授会でも何度も議論して、今年度からスタートいたしました。スタートした時点で五つのテーマのうち三つ、さらにそのうちの前期十数科目を行ったところですか、これを実施する過程でリベラルアーツという科目群、つまりいろいろな文系、理系にまたがっている科目ほど教育の方法が問われるというのでしょうか、そこに工夫を凝らしていく必要があります。ファカルティ・デベロップメントが、何よりも教員自身がリベラルアーツ化することが必要ではないかという議論もあったのですが、そういう意味でのファカルティ・デベロップメントが必要であるという考えを当初から取っておりまして、昨年 10 月にもこのリベラルアーツに関するシンポジウムを開催いたしました。

今年は2回目になりますが、二つのことに留意しました。一つは、前期に授業を担当された教員の方々から、実際に文理を超えるテーマで文理を越えた学生が受講する中で、どのような問題とどのような成功があったのかということの後半、具体的に議論していきたいと考えています。もう一つは、リベラルアーツと学士教育課程の教育というのが、中教審の答申などを出てますます問題になっております。そういう意味で視野を広げて、FDに限らないで、あるいはリベラルアーツに限らないで、広く学士教育を国際的な潮流の中で、あるいは時間的な流

れの中で何が必要とされているのかということを考える必要があると思い、この方面で大きな活動をなされていらっしゃる寺崎昌男先生に前半のご講演をお願いいたしました。

そこで寺崎先生のプロフィールを簡単にご紹介申し上げます。専門は教育学、教育史になられます。今日のお話にあります、東京大学と立教大学で教鞭を執られて、立教大学の中で全学共通カリキュラムの改革に 10 年ぐらいつとタッチされています。私も寺崎先生の本を何度も読ませていただいて、時間的な視野、世界的な視野の広さにいつも学ばせていただいているのですが、その寺崎先生をお迎えして大きな観点から問題を論じていただく。それを踏まえた上で、実際の実例を通しながらまた掘り下げていくという議論を後半に行いたいと思っています。

後半は本学の荒井先生、浅本先生に司会をバトンタッチいたしますが、前半の司会は私が担当させていただきます。配布させていただいた資料ですが、リベラルアーツの全体をご説明する時間がないので、受講者にアンケートを取りまして、授業を始める前に取ったアンケートと前期の授業が終わったところのアンケート、主にこの狙いを学生がどういうふうにとらえているのかという、アンケートの形で実施状況を見ていただこうと考えています。もう一つ、ホームページに実際の授業の様子を載せているもの、カラー刷りですが、これはウェブに載っておりますが、それをご用意いたしました。あとは後半のパネルディスカッションのそれぞれのパネラーの資料をご用意しております。

これから3時間ぐらになります、ぜひ活発なご質疑をお願いしたいと思っております。寺崎先生のご講演につきましては文字の資料を皆さんのお手元に届けていきたいと思います。大変お忙しい中、今日も大阪の方からお越しいただきまして、本当にありがとうございます。